

**DS-0250 スループットディスク機能ソフト  
異常波形を 10s 間だけ収録を繰り返す方法**

---

## DS-0250 スループットディスク機能ソフト

### 異常波形を 10s 間だけ収録を繰り返す方法

DS-0250 スループットディスク機能ソフトのトリガ機能を使うことで、特定の異常波形を一定時間収録することができます。ここでは、入力信号がトリガレベルを越えた時、トリガ点より 2048 サンプル前より 10 秒間の信号を 100 回収録するという設定で説明します。

DS-0250 の基本操作は別紙「DS-0250 スループットディスク機能ソフト - データを収録する方法」を参照ください。

#### ■ 測定条件

トリガ機能	有効
収録時間	10 秒
トリガレベル	50% 立ち上がり
ポジション	+2048
回数	100 回

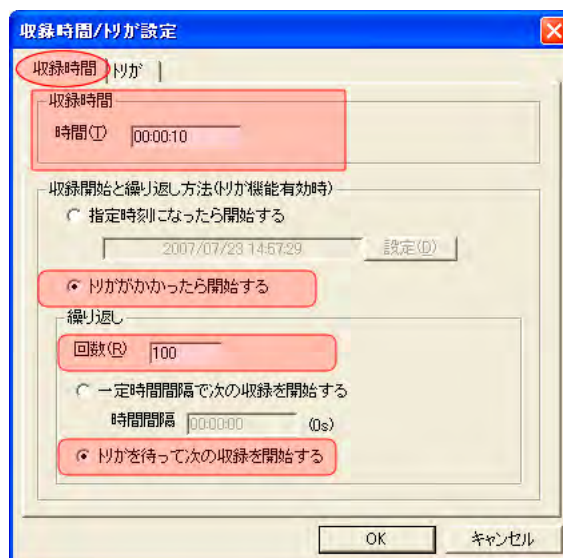
## ■ 操作手順

〔START〕 ボタンを押す前までの基本操作に関しては、別紙「DS-0250 スループットディスク機能ソフト - データを収録する方法」を参照下さい。

### 1. 収録時間・トリガの設定

- ① ファイルメニューから、〔入力〕 → 〔収録時間/トリガ設定〕を選択し、表示される「収録時間/トリガ設定」画面の〔収録時間〕タブ内の各値を次のように設定します。

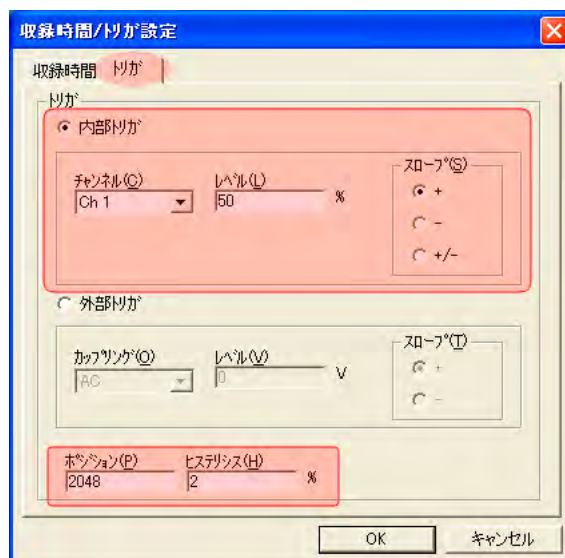
収録時間	00:00:10 (10 秒)
トリガがかかったら開始する	ON
回数	任意 (ここでは 100 に設定、最大 999 回まで)
トリガを待って次の収録を開始する	ON



- ② 同じ「収録時間/トリガ設定」画面の「トリガ」タブ内の各値を次のように設定します。

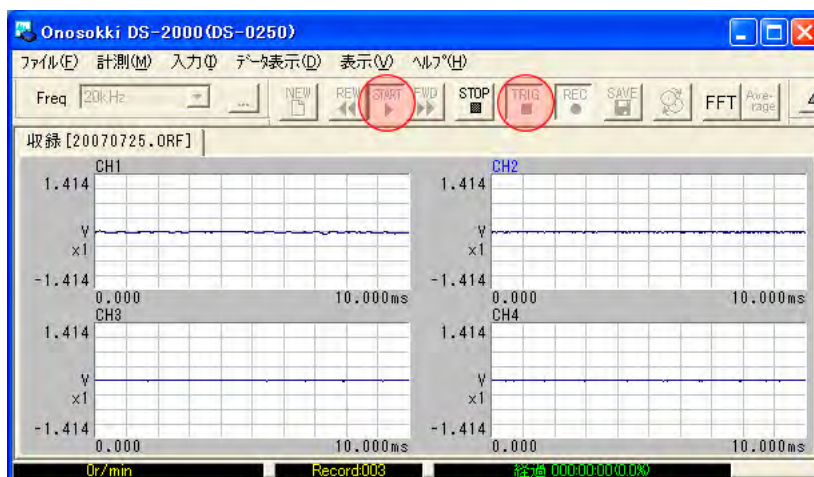
内部トリガ	ON
チャンネル	任意（ここでは Ch1 に設定）
レベル	任意（ここでは 50% に設定）
スロープ	「+」を ON
ポジション	+2048 （トリガ前 2048 サンプルから収録されます）
ヒステリシス	2%

\*各設定内容に関しては HELP を参照下さい。



設定が完了したら画面右下の「OK」をクリックします。

4. ツールバー上の「TRIG」ボタンを ON します。上記で設定したトリガ関連条件設定が有効になります。
5. ツールバー上の「START」ボタンを ON します。入力信号がトリガレベルを超えると Record1 の収録が開始され、トリガ点よりサンプル数 2048 前のデータから 10 秒間収録されます。Record 2 に変更され次のトリガ待ちとなります。下図は Record3 のトリガ待ちの状態を示します。STOP ボタンを押すまで収録を繰り返します。



6. ツールバー上の「STOP」ボタンを ON し、収録を終了します。
7. ツールバー上の「SAVE」ボタンを ON すると、収録データが保存されます。
8. 収録データの確認  
ファイルメニューから、[ファイル] → [ファイルのプレビューを開く] を選択します。



— 以上 —